

寄書

蛇の豫防法

枯星

蛇！僕は人並勝れて蛇が大の禁物まして寫生最中になど先生に出られたらどんな好景色其畫が半分以上仕上がつて居てももう靜に筆を採る事は出来ない位です、否諸子もあまりお好きではありますまい、僕も色々此防ぎ法を考へた結果一つ良法を案出しました、それは寫生に出る時極安線香を四五把求めて、三脚をすへし近くへ一把くすべるので、他方か見るとまるで野中の地藏尊の様であり見よくはありませんが、蚊群なども煙に恐て來ませず、總て夏になると出て來る毒虫なども一切近よりません。近く蛇の時候になりますから山間などに寫生を致さる方の御參考にまで

スケッチ研究の必要

△□○生

今言ふスケッチとは水彩畫で寫生するのでなく、只鉛筆で物體の形態或は一瞬の状況等を速寫する事を意味するのだ自分の常々居る處の物は全體見慣れた物計りだから一向スケッチの必要を認めぬが、一步郊外に踏出すと珍しい物が澤山あるので、自然

之を寫して參考に残して置たいと云ふ感じか起る。然し之を一々水彩畫で畫くのは甚面倒である、そこでスケッチの必要か起る旅行した折等は、其所の一寸した風景や名所や、偕は風俗等寫さうと思ふ者はいくらかもあるが、それには矢張スケッチするが最上策だ。前にスケッチした點景を、工合よく他の畫面にはめ込むで、大層よくなる事がある、然し水彩等寫生中に折よく點景の材料が居ても、ゆる／＼寫して居る間に居なくなつて落膽する様な事は屢ある。斯様な場合にはスケッチの効果は餘程多い。要するにスケッチの研究は吾々に取つては肝要な事であると思ふ。

大阪附近寫生地案内

乙部 孝

大阪附近にはよい寫生地が澤山ある。先づ其中で一番よいのは神崎川から兵庫の武庫川邊であらう。山も見えれば森もあり水も舟もある。又海邊にも近いのでなんでもすきな畫題が得られる。次は市を南へ天下茶屋から住古瀆寺等で、白砂青松の間から青疊を敷いた様な海、其を走る舟遙に眉の様な淡路島が見ゆるなど、眞に一幅の水彩畫

である。其他櫻宮や鶴滿寺の櫻花桃山や倉治の桃花、十三堤や櫻島の菊花等どれも諸君のスケッチブックを飾るに充分であらう

夕暮

成田 波志津女

『兄さん……』力無き微かな聲去年の春眼病にかつて父母や我やはた愛らしき自然の風景さへも見ることが出来無く成つた今年十五歳の愛弟。

『何して居るの又スケッチ！』

『ハ、ハ、ハ、』後は得云はず畫筆を置いて

弟の方を向けば凹んだ眼涙の二三、。

我は立つて畫架を疊み南の小窓を開けた。

せめては去年まで我と共に三脚据えた落日

の美を影ながら見せ様と思つて

今迄コバルト色の空は地平線に接する所はバルミリアンとガンポーザ色に上部は一面にオルトラマリオンと成つて數々我等の畫題と成つた天神の森は異様に輝やいて居るのである。弟の蒼白い顔までが紅色に……。

『未だ日は暮れないの？』

我は答へ様とすれと言葉無く涕は頬を流れた折から臺所の方で妹の聲

『兄さん御飯ですよ』